

今月は選択問題、ぬき出し問題の解き方についてお話します。読解問題の中でも選択問題は出題の比率が高く、正答率を高めることは中学入試を突破するうえで重要になります。また、ぬき出し問題は正解の箇所を見つけるのに時間がかかる場合もあり、限られた時間の中で解かなければならない入試において、その処理の仕方がポイントとなります。

まず、選択問題の解き方から説明します。選択問題に関する相談で一番多いのは、「選択肢を2つにしぼるところまではいけるのだが、いつも誤りの方を選んでしまう」というものです。これは選択問題を消去法で解こうとしているので起こる問題だと言えます。消去法を使って解くことが絶対によくないというわけではないのですが、実は消去法では解くことができない問題もあるのです。それは、説明しなければならないポイントが複数ある問題です。たとえばAとBの2つの内容を説明しないといけない問題で、Aの内容しか書いていない選択肢、Bの内容しか書いていない選択肢、AとBの両方の内容を書いている選択肢があったとします。もちろん正解はAとBの両方の内容が説明されている選択肢ということになりますが、消去法で解こうとすると、この3つの選択肢はどれも消せません。なぜなら、どの選択肢の内容にも誤りが無いからです。このように消去法は完璧な解法ではないのです。

得てして選択肢問題が苦手な生徒は、消去法、つまり選択肢に頼って問題を解こうとしているので、その姿勢を改めることが選択問題の正答率を上げる鍵になります。

もちろん、消去法で解くのが非常に有効な問題もあります。それは、本文に傍線が引かれていないタイプの問題です。たとえば、本文の内容と一致する選択肢を選ぶ問題では、選択肢に書かれている内容を本文の内容と照合させ、選択肢のどこが誤りなのかをおさえるようにします。

では、選択問題を解く際には、どのようなスタンスが必要なのでしょう。それは、設問文を読んだ後、そのまま続けて選択肢に目を通すのではなく、前回説明した読解問題を解くときの4つの方法を使って、まず頭の中で解答を想定します。そしてその想定した解答と一致する選択肢を選ぶようにします。もちろん、解答を想定してから選択肢を見ても、2つの選択肢で迷うことはあります。そのときは、2つの選択肢の説明の違いがどこにあるのかを分析してください。そしてその違いを意識しながらもう一度本文を確認し、どちらが正しいかを検討するようにします。このようにすれば、選択問題での誤答を減らすことができるでしょう。

続いて、ぬき出し問題の解き方を説明したいと思います。設問を解く際の基本的な考え方は選択問題と同じです。設問文を読んで、解答を頭の中で作成します。そして、解答として想定した内容が書かれている部分を文中から探すようにします。

しかし、この探すという作業が厄介で、これがぬき出し問題を難しくしている要因なのです。なぜ厄介かというと、解答の場所がある程度限定できる問題と、そうではない問題があるからです。本文を読んだときに本文全体の構成を正しく理解していれば、どこにどのような内容が書かれているかが分かっているため、探す部分に目星がつけられます。逆に言えば、本文の内容、本文の論理展開が正しく理解できていない場合は、探す箇所を限定できず、本文を最初から最後までもう一度読み直し、探すしか

いことになります。また、問題によっては、本文全体からやみくもに探さざるを得ないものもありますし、傍線の内容とは全く脈絡のない部分に解答があるという作問がなされることもあります。

したがって、ぬき出し問題では、その設問に手を出さないというのも戦略の1つになります。つまり、解答が想定できても、ぬき出す場所がすぐに見つからないときは、いったんその設問はパスした方がよいと言えます。

次に、字数制限のあるぬき出し問題の解き方、注意すべき点について説明します。ぬき出し問題の字数制限は、5文字単位で考えます。たとえば、30字以内でぬき出す問題だと、解答の文字数は26字から30字の間になります。また、長い字数設定の問題では、設問が作られている傍線部分の表現に対応させて、ぬき出す部分の「終わり」を先に見つけるようにしてください。そして、下から上に字数を数えるようにします。ぬき出しの「始め」の部分を見つけないと、設定字数に合わないときは、また初めから数え直すことになってしまい、時間を浪費することになります。「終わり」を先に探せば一回数えるだけで解答の場所を確定できるので、時間の短縮につながります。

最後に、各回のポイントをあげておきます。

第15回

心情説明の3回目になります。「きっかけ」「心情」「行動・動作」の関係をふまえ、解答を作成するように心がけてください。傍線部の前後に会話文があるときは、その会話の内容を手がかりにして考えると、解答が導きやすくなります。

第16回

物語文における、具体化説明を扱います。今回の教材では、比喻の説明が大きな山場となります。たとえに使われている表現の様子を頭の中で思い浮かべ、本文の内容とどこに共通点が見いだせるかを考えるようにしてください。

第17回

今回は「暗示・象徴」をテーマとして扱います。「暗示・象徴」によって示される内容は、物語の主題と関係します。したがって、物語の主題とどのようにつながっているのかを考えることが大切です。

6月は祝日がないため、一旦学習のペースをつかんでしまうと良い流れになる時期といえます。ただ、その一方でそのペースが崩れてしまうと、一気に勉強量が落ちてしまいます。大変かもしれませんが、早め早めの仕掛けをしていき、実力をつけていきましょう。

この講座は基本的な内容がしっかりと定着した上で、さらに発展的な内容を身につけることを目的にした講座となります。基本の徹底を大切にして、取り組むようにしてください。

動画の構成としては、まずは〔重要問題〕が各回10題程度収録されています。〔重要問題〕はまず自力で取り組んでください。そのとき、ノートには式や考え方をかいて、整理をしながら取り組みましょう。その後、答え合わせをして、まちがえた問題（できなかった問題）は必ず動画を見ながら解法の手がかりとなる考え方を習得してください。できれば、できた問題も解法の整理をするために、動画を見ることをおすすめします。〔練成問題〕は、〔重要問題〕から派生した問題を中心に収録しています。このうち、発展的な内容を扱うタイプのうち、特に重要なものを動画で扱っていますので、どんどんチャレンジしていきましょう。

6月は、入試では頻出単元となる「平面図形」「速さ」の分野に取り組みます。各回の学習の目安は以下の通りです。

◆第15回 平面図形Ⅲ

今回は「図形の移動」がテーマです。大切なことは、「作図は速く、正確に！」正確でないといけな
いのは当然ですが、作図に時間をかけすぎると解く時間が短くなってしまいます。また、「等積移動」
の考え方を利用しながら、求積の工夫をしていきましょう。

①〔重要問題〕

①, ②—平行移動

どの頂点も同じ長さ移動します。また、平行の関係があらわれるので、相似形を意識して取り組んでいきましょう。

③, ④—回転移動

どちらも移動の様子はかかれています。それぞれ作図にも取り組んでみましょう。

⑤—転がり移動

長方形の外側を動く場合と、内側を動く場合があります。きちんと作図をして取り組みましょう。

⑥—回転移動

中心と移動の対象が離れているときは、「最も遠い点」と「最も近い点」を意識して作図していきましょう。

⑦—三角形の転がり移動

9cmの正三角形の周りを3cmの正三角形を転がるので、まずは各辺に3つずつかき、頂点を確認してください。その後、頂点の動きを確認していきましょう。また、三角形が通過した部分の面積は注意しておこう。

8, 9ーおうぎ形の転がり移動

おうぎ形の移動は必ず理解をしておきましょう。特に、中心の移動の様子やその長さはしっかりとした理解を必要です。

10ー三角形の転がり移動

正三角形を13個かいてもよいですが、周期を意識して取り組んでみましょう。

11ー円の転がり移動

円が円のまわりを動く問題では、作図の様子を確認しておきましょう。中心と中心を結んでいくと、正三角形ができて、中心角がわかりますね。

②〔練成問題〕

練成問題では、いくつか選択して動画で扱っています。その問題についてはしっかりと理解をしましょう。余裕があれば、残りの問題にも取り組んでください。ただし、理解には段階があります。時期を経て再び扱う問題もあるので、全部解かないといけないと思う必要はありません。

◆第16回 平面図形Ⅳ

今回は「底辺比」がテーマです。2つの三角形が辺を共有すると、その2つの面積は高さが等しいとすることができますね。ただ、底辺はどの3辺もなりえますので、柔軟に図形をみていきましょう。

①〔重要問題〕

1ー隣辺比の利用

「辺の割合×辺の割合」を使いながら、三角形の割合を求めていこう。

2ー風車三角形

補助線の引き方の練習になります。底辺比を意識しながら、補助線をかいていこう。

3ー面積からの逆算

「高さが等しい三角形では、底辺の比と面積の比は等しい」ので、面積比がわかれば、底辺比もわかりますね。

4, 5, 6, 7ー四角形と面積比

底辺比の問題では、基準となる図形は三角形です。四角形は対角線で2つの三角形にわけると、定番の解法を身につけましょう。

8ー三角形の底辺比

4等分した図で考えていきましょう。

9, 10, 11ー加比の理

「ベンツ切り」などとも言われますが、この考え方は必ず身につけておきましょう。

12ー四角形の割合

底辺比の問題では、基準となる図形は三角形です。四角形を基準とする場合は、三角形が2こ組み合わせた図と考えます。

②〔練成問題〕

練成問題では、いくつか選択して動画で扱っています。その問題についてはしっかりと理解をしましょう。余裕があれば、残りの問題にも取り組んでください。ただし、理解には段階があります。時期を経て再び扱う問題もあるので、全部解かないといけないと思う必要はありません。

◆第17回 平面図形V

今回は「相似比」がテーマとなります。平行線を意識しながら、どの図形とどの図形が相似にあたるのかを確認しながら取り組みましょう。もちろん、底辺比と融合されますのでその視点も大切に。

①〔重要問題〕

1, 2―影の作図

難関校の入試では、よく出題されます。相似比をしっかりと確認し、正確に作図に取り組み、面積を求めていきましょう。

3―相似比と面積比

相似比が $A : B$ ならば、面積比は $(A \times A) : (B \times B)$ になりますね。底辺比と組み合わせて取り組んでいきましょう。

4

斜線部を2つの三角形に分けると、相似な関係がみえてきますね。

5, 6―相似の利用

相似の関係を使うことで、辺の比が分かってきます。

7, 8―直角三角形の相似

相似な関係の三角形においては、3辺の長さの比も等しいはずです。このような視点をもって図形に取り組んでいきましょう。

9―延長線の利用

延長させることで、新たな相似の関係が見えてきます。

10―正六角形

正六角形は大きな正三角形から小さな正六角形を取り除いた図形と考えることもできます。

②〔練成問題〕

練成問題では、いくつか選択して動画で扱っています。その問題についてはしっかりと理解をしましょう。余裕があれば、残りの問題にも取り組んでください。ただし、理解には段階があります。時期を経て再び扱う問題もあるので、全部解かないといけないと思う必要はありません。

算数強化ツールにつきましては、以下ご参照ください。

算数強化ツールに関しては、動画は「応用」の前半の部分を扱いますが、少し引っかかることが多いと感じた場合は、「基礎」や「共通」の部分も使って、練習を積むことをお奨めします。

◆第 15 回（33 回）平面図形・相似に関する問題

相似形に関する色々な問題を扱います。4, 5, 6, 7はオーソドックスですが、間違いなく正解できるようにしておいてください。なお、7(1)は相似ではなく、三角形 ABM と三角形 ANM の面積の比から求められるということも知っておいてください。3, 15もつながっています。2, 10, 11, 17, 18, 21, 23, 31, 35, 36あたりは良問です。あと、1もセンスが問われる問題で、本来①, ②, ③, …, ⑨の面積比は 1, 3, 5, …, 17 になるので、その和が等しいということを考えるのですが、○番号の数値のまま和が等しいと考えてもよいというところが面白い点になります。

学習対象問題は1～20と32です。21～31、33～34は余裕があったら取り組んでください。

◆第 16 回（34 回）速さに関する問題

図形が終わり、速さに関する問題となります。5, 11, 12, 13, 19は定番の問題です。14, 23も良問になります。また、信号の問題として26も好適です。

学習対象問題は1～14です。15～27は余裕があったら取り組んでください。

◆第 17 回（35 回）速さに関する問題の続きと一部点の移動に関する問題

速さと点の移動に関する問題となります。1, 2, 5, 8, 9, 11, 20は定番の問題です。また、12, 14も良問です。

学習対象問題は1～12です。13～24は余裕があったら取り組んでください。